

タイトル (活動概要)	50 みんな元気！健康観察	アプローチ (関連する力)		「仲間づくり」⑤ ⑩	
タイミング (実施時期)	毎朝	活動場所	教室	所要時間	3分程度
対象学年	幼・ 小低 ・小中・小高 中1・中2・中3・高	対象規模	学級	活動場面	朝の会
活動のねらい	<p><背景>子ども同士のぶつかり合いや関わり合いの不足から、相互理解を学び、他者の存在への気付きを大切にしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の元気を伝えると同時に、友達の名前をみんなで呼ぶことで、友達の名前や今の様子を知る 自分の今の状況を話すきっかけ作りとする 				
準備	特になし				
学習・活動		支援の観点・留意点等		資料等	
1 導入					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 元気に返事をして、健康を知らせ合おう </div>					
2 主活動 ○やり方を知る <ul style="list-style-type: none"> 日直4人が、座席順に一人の名前を呼ぶ「Aさん！」 続いて全員で「Aさん！」 Aさん「はい、元気です。」 日直4人「Bさん！」 続いて全員で「Bさん！」 Bさん「はい、元気です！」 を繰り返す ○(名前よび)健康観察をする ○「きょうがんばりたいこと」を発表する		<ul style="list-style-type: none"> 全員に名前を呼ばれたら、大きな返事をして手を挙げるようにはじめに約束しておく 最後に先生の名前もフルネームで呼び、先生も大きな声で返事と挙手をする 続いて「きょうがんばりたいこと」のコーナーで、「〇〇さんは、体育でなわとびが楽しみとっていたので、私はなわとびをがんばろうと思いました。」といったふうに「みんな元気健康観察」で聞き取ったことを生かすものを増やしていく 			
3 ふりかえり					
<ul style="list-style-type: none"> 「きょうがんばりたいこと」で話す 					
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 初めのうちは、大きな声で返事ができない子も、手を挙げるだけでもいいという流れにする 回数を重ねていくたびに「声の大きさ」「手の挙げ方」など付加を加えていく 				

実践報告

こんな成果や変容が・・・

①クラスの友達の名前を早く覚えられる。

- ・はじめの懇談会で、お家の人から「夕食の時、全員の名前をこの流れで言うので、私もクラス全員の名前を覚えました。だから、授業参観でも、聞いたことのある名前だったので、楽しかったです。」というお話があった。
- ・スムーズな流れでの一種の歌のような雰囲気、名前が自然に頭に入っていく。
- ・1年生は特に、自分のそばにいる数人しか名前を覚えられない4月でも、この活動が続けるとあっという間に名前を覚える。

②返事の声が大きくなる。

- ・はじめのうちは声を出さずに口だけ開けて、手を挙げていた子どもが、この独特の流れの中で、自然に声を出すことになっていった。
- ・大きな声で返事する児童を「上手なお返事だね。」と賞賛することにより、さらに効果がある。

③次第に「はい元気です」のあとに、一言二言増えていくことにより、話すことへの抵抗が少なくなり、場慣れしていく。

- ・「はい、元気です。今日の体育が楽しみです。」「はい、元気です。でもちょっと頭が痛いです。」「はい、元気です。今日は、私のお誕生日です。」「はい元気です。きのうは、ディズニーランドに行っただけが遅かったので、ねむいです。」といった具合に、その日の体調を言った児童には、配慮した一日を過ごす情報として利用するだけでなく、その子どもの生活状況やいちばん伝えたいことを聞くことのできるチャンスととらえる。

④みんなに呼ばれることのうれしさによる自己存在感

- ・日直に呼ばれ、みんなに大きな声をそろえて自分の名前を呼ばれることはとても嬉しく呼ばれている間中、緊張しながらもにこにこして手を挙げる心の準備をしている。2回呼ぶことで、心の準備をするのにもちょうどいい。

⑤教師へのモデリングを意図して、毎日の指導に活用できる。

- ・最後は先生の名前もフルネームで自然発生的に呼ぶようになった。そのとき「はい、とっても元気です！」と大きな声で耳に手をつける手の上げ方を見せ、よいお手本として毎日見せることも指導となった。
- ・話の内容に体調のこと、天気のこと、今日の学習の子どもへの喚起する内容など、幅の広がる多岐にわたる話題を盛り込むことで、コミュニケーションのモデルを示すことができた。

⑥大切にしている仲間という意識への発展

- ・みんなでかわいがっている金魚の名前も呼ぼうという仲間意識が高まっていった。「きんちゃん、まりんちゃん！」と大きな声で言うことで、生き物への世話の意識も高まる。
- ・自分たちも名前チェーンでつながっているという仲間意識が高まる。

